

自然に学び、先人に学ぶ

No.20 ～生き延びる～

不安が膨らみ、不安を超すと恐怖を感じるようになります。誰しも何がしかの不安を抱えて生きていますが、人はどのような時に不安を感じるのでしょうか？その不安を少しづつ無くすことができれば穏やかに生き延びて、思い残すことのない人生が送れそうです。

* 人生最大の命題は～生き延びること～

目の前に突然迫った危機は本能的、反射的に避けようとしませんが、頭の中で考え空想（勝手な思い込み）して組み立て始める不安や恐怖は避けようがありません。なぜなら自分の中で膨らまし、現実には自分が身に起こるかもと予想してしまいます。忘れようとしても自分の影みたいにつきまとい離れませんので厄介です。

例えば、健康問題は身近な不安のひとつです。体調の不調を感じると、病気に対する心配・不安でいっぱいになります。元気でいるときは他人事で済みますが、いざ体調不良になると自分の中で整理がつかない、納得できない。ましてや死からは逃れたいと思うのは人情と言いますか、世の常で受け入れがたいのは当然です。誰でもいずれは死ぬと頭では解っていても・・・。

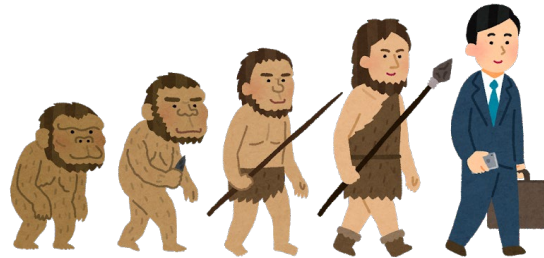
長野県佐久市に『びんころ地蔵』というのがあり、人気のスポットになっています。これは“ピンピンコロリと死にたい、死ねたらいいなー”という願いをかけるところで。このように願いながら生活していると、ピンピンコロリと死ねるかもしれません。殆どの方は相反する面を持っています。それは、眼に見えないものに対する拒絶反応（免疫反応）が強い割に、『びんころ地蔵』へのお詣りや新年に限らず各地の神社・仏閣へのお詣りに余念がありません。お賽銭 100 円でなんと多い願い事をするのでしょうか！神様も仏さまもビックリされておられることでしょう！！

一般社会生活の中では、眼に見えないものや新しいもの（物）に対しては、大方の人が先ず拒絶します。反面、前述の例の通り、眼に見えないけどご利益がありそうと思われる神様や仏様に対しては信じる力があります。

LOA（環響エネルギー）商品は見た目の形はありますが、機能する内容（実体）は眼で見ることができません。その力（パワー）そのものを測定・観察して、評価することはできませんが、現象の変化や効果（結果）は実感として確かめることができます。

商品の開発・販売から満 15 年になりますが、これまで多くの人や動植物の病が癒えたり元の元気な状態に戻れたりしています。まだ世の中に受け入れてもらっているとは言えませんが、不安を抱え悩んでおられた人たちのお役に立てていることは間違いなさそうです。

*眼に見えないものほど大切なものはない



人間はじめ、野生の動物たちは、基本的能力としての“警戒心の強さ（臆病）”があったから歴史の最先端の今日まで生き延びてきたと言われていますが、人間には他に高い言語能力や想像力という力があります。その他にも特徴的なものとして、音や匂いなど五感以外の見えないものに対する感覚が備わっているようです。自然（神、愛）や心という眼では捉えられない概念を持つことができ、それを活かし操る能力があります。恐怖や臆病とは違う自然に対する畏怖や畏敬の念を持ち、それを大切にすることもできます。

宇宙物理学の発展のお蔭で、この宇宙の構成を知ることができるようになりました。最新の研究であきらかにされています素粒子の世界の動きと宇宙全体の成り立ちは、人間の内面に現れるもの（感性）と相似しているように思えます。

①この宇宙は見ることのできない「暗黒物質（23%）」と「暗黒エネルギー（73%）」で構成されていて、我々が見ている物質（原子）の世界はわずか4%程度にすぎない。

（村山 斉／カブリ数物連携宇宙研究機構国際高等研究所教授）

① 1つの電子（粒子）が同時に2つの穴を通り抜ける。ただし、誰かが観察しているとその軌跡は見ることはできないが、痕跡は確認できる。（コペンハーゲン解釈／ボーア）

このような事実を知らされても、今の私たちには否定することはできません。それは、このようなことが解明されるところまで追求し研究できる意思や意識、念（想）い、想像力があるからだと思います。情報量の多さもありますが、素直に受け入れることができます。

私たちの日常生活で、人生で、最も大切であると考えていることは、

(A) 「健康」「安全」「安心」・・・「幸せ」「豊かさ」など、殆ど眼に見えないものです。

仏教でいう「悟り」に似ています。湖面に映る月のように具体的に手にすることはできませんが、求めて止まないものです。

逆に拒み、嫌がり、避けていき（生き）たいことは、

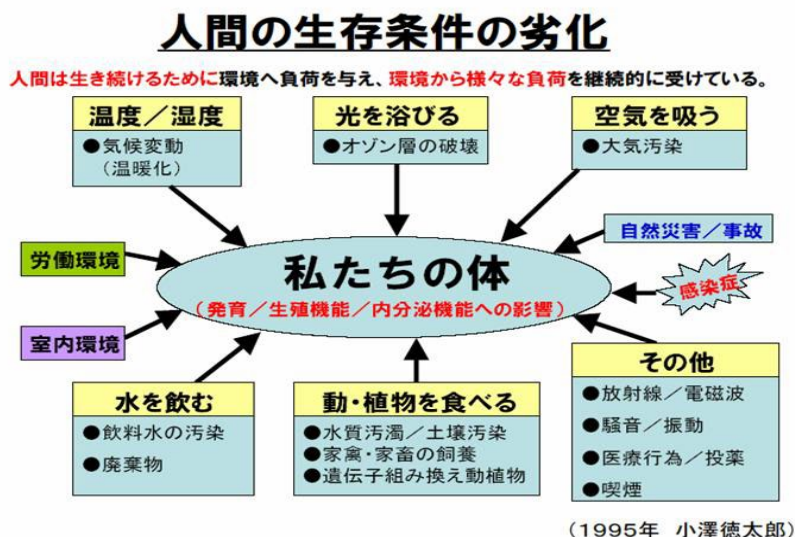
(B) 「病気」「不安」「危険」・・・「恐怖」など、こちらも眼に見えないものです。

ここでもう一つ眼には見えませんが、熱エネルギーや位置エネルギー、運動エネルギー等以外の「情報にエネルギーを与え作用する」環響エネルギーというものがあります。これを応用して商品化したものが『LOA（環響エネルギー）商品』です。商品ですから「物」ですが、その本質、実態は眼に見えない「もの」です。環響エネルギーに満ちた環境の下では、不可思議なことが瞬間的に起き、永続的に作用し始めます。前述の(B)を(A)へ励起し変換する方向へとシフトしていきます。言い方を変えますと、調和（バランス）する中心（中庸）へと向かいます。ということは、副作用（副反応）や新たなマイナスは生まない、エントロピーも増大しないということになります。因って、存在するあらゆる「物」も「もの」も否定し排除することなく生かすことが可能となります。

この大本は、前述の原子や素粒子より小さい（形のない）意識エネルギーで、普遍のエネルギー領域と繋がると考えています。眼に見えないもの（環響エネルギー）で眼に見えない物（原子や素粒子）を最善の内容にすることで、常識では考えにくい不可思議と言える“いいこと”を私たちの感覚で感じることができるのです。これを可能ならしめる原点は人の愛に満ちた意思や意識、念（想）い、想像力に由るものです。

*人間が作った人間社会の災禍の原因は、人間が治す（癒す）しかない

私が生まれた時代（1950年）は、終戦後の貧しさや赤痢などの感染症はありましたが、今のような命にかかわるような環境による健康問題、とりわけ化学物質過敏症や電磁波過敏症、コロナウイルス感染症に当たるものはありませんでした。その違いの原因は必然的成り行きで一目瞭然です。人間がいかに自然から遠ざかって生きているか、ということです。自然から遠のいてきた要因には多くのことが考えられますが、「経済」という魔物の呪縛から逃れることができないことが根底にあります。その流れの中では、ほぼすべての人が欠かしてはならない大切な「愛に満ちた想像力」を失ってきたと考えられます。



鶏、豚、牛などの家畜は、効率重視の餌（糖質、穀類等）を与えられ、予め抗生物質やワクチンを投与されます。それでも一旦感染症が発生すると全数（大量）殺処分となります。人間の都合でなんと理不尽でむごいことを続けるのでしょうか。

もしも、このような事が人間社会で同じように適用されたら、と現在のコロナ禍の様子と重ね合わせて想像すると背筋が寒くなります。今日、私たちが進んでいる方向や内容には相容れない違和感を覚えます。それは、生命（力）の本質から乖離していると強く感じるからです。人も家畜も生命力あふれた存在であることを改めて認識しないと罰当たりなことになりかねません。

私は何かの原理主義者でもありませんので、他を否定したり排除したりする気は毛頭ありません。ただ、自分の物差しとして『自然』に対してどうなのか？を判断の基準にしています。

「自由」「民主」「平等」「平和」「経済的豊かさ」等々も大事ですが、最も大事で欠かせないことは、「教育」でありその中身です。真の「**愛に満ちた教育**」、その先に健全と言える「環境」や「健康」「経済」・・・「自立」「独立」などの本質も見えてくると思います。

（自分への猛省、懺悔の心を含めて悔やまれます）

遅くはありません！今一度、想像力を働かせて、人間が作った人間社会の災禍の原因を認識し、癒す（治す）ことは可能です。一人でも多くの善き理解者を得ながら、点と点を繋ぎながら線にして、面にして、少しでも明るく豊かで幸せな生き易い社会を創る活動を続けたいと思います。

不安や恐怖から離れ、より多くの人々が安心して生きられる環境を創っていきましょう！

そして、豊かな中で天寿を全うしましょう。

*** 自然と共生し、愛と調和と感謝に根ざした社会へ**

*** 物質科学と心の科学を融合する文明へ**

以上